
ベドウィン

かずてる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ベドウィン

【Nコード】
N5382M

【作者名】
かずてる

【あらすじ】
月夜に、と言いつつ雨が降っております…
散文。

熱が、こらえてもこらえても絞り上げた齒磨き粉のようにあふれ出る。

僕はきみに告げるべき言葉を編み上げて、喉もとで声にして震えながらおずおずと差し出すその瞬間に、それをやめてしまった。

僕はらくだみたいだった。ベドウィンに鼻輪を手引かれて、砂丘をとぼとぼ歩いてるみたいだった。ベドウィンは灰色のひげに覆われていて皺くちやだった。眼球が、日中砂に照り返す紫外線で焦がされて真っ白だった。

千夜一夜。月の匂いがする。

碧い硬質な線に導かれて、らくだの蹄が砂に突き刺さり、そのたびに月の位置が少しづつ動いた。天球の隊商は月光を受け入れる。月を良きものとし、月夜になるべく遠くへ、進めるだけ進もうとらくだを急かした。

次のオアシスでらくだを休ませよう。隊商の先頭をゆくベドウィンがオアシスのあかりを見た。彼は立ちどまって静止した。瞬間接着剤でかためたみたいに彼のすごく大きくて優美でゆるやかなマントがたなびいて止まった。それが、部族のあるべき姿だった。マスケット銃を振り回して、らくだで突撃したこともあった。千の夜のいくつかは、そんな戦いの夜でもあった。

静止した夜に。僕は言うべき言葉をおずおずと、結局伝えずじまいだったじゃないか。

部族の曲はドラムの輪唱で編み上げられている。ビートとビートが交差してマントのすき間から月夜へと巻き上がっていく。僕はらくだみたいに大きなまぶたをしばたたかせ、きみを見ていた。

部族のかたまりに、月は均質で硬質な、碧くて平べったい光をマントのように投げかけて、僕は白いシーツの内側で熱を帯びて、それで君に言うべき言葉を失ってしまい、瞬間接着剤でかためた夜

に、僕はらくだのようなまばたきをして、それで眼球は白かった。

千夜一夜。きみに言葉を。

先頭の男が動いた。

マントが揺れて、それは雲みたいだった。

蹄が砂に埋まった。僕はそれを砂から引き抜いてまた一歩踏み出

し、より遠くへ、オアシスのほうへと、歩いていった。【了】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5382m/>

ベドウィン

2010年10月11日13時26分発行